



Informatica PowerCenter ユーザー企業300人の声

2024年クラウド移行の現状

Where data
& AI come to **LIFE**

目次

エグゼクティブサマリー	3
調査で明らかになったこと	4
お客様の視点	6
今後の展望	7
ユーザーの視点	12
まとめ／調査方法について	14
企業情報	15

エグゼクティブサマリー

2023年の最も重要なトレンドの1つは、テクノロジー環境全体にわたる生成AI（人工知能）のパーソナライゼーションで、これは個人レベルでのプロアクティブなAIの第一歩を示すものとなりました。大規模言語モデル（LLM）やChatGPT、Google Bard、GitHub Copilot、その他さまざまなツールの爆発的な成長から、これを見て取ることができます。パーソナライズされたAIを展望したとき、データリーダーたちは、実世界のアプリケーションとデータの課題を解決するために、ローカライズされ、高度に焦点を絞ったAIベースの機能を導入し、アプリケーションと管理をプロアクティブにモダナイズするための強力なツールを手にしたこととなります。

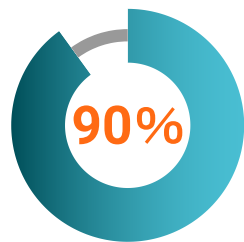
インフォマティカによる最新の調査では、AI搭載のクラウドベースのソリューションを通じたアプリケーションとデータマネジメントのモダナイズेशनがもたらす競争優位性が、世界のデータリーダーたちの間で認識されていることが明らかになっています。

この調査では、北米、欧州、アジア太平洋地域でInformatica PowerCenterを使用している企業のシニアデータリーダー、経営幹部、IT担当幹部ら300人から回答を集めました。それによると、データリーダーの10人中9人近くが、クラウドへのモダナイズेशनを優先することが効率の改善、イノベーションの推進、拡張性と柔軟性の向上につながると感じています。

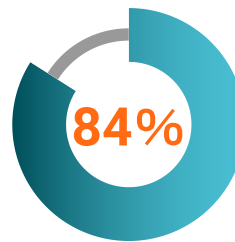
PowerCenterを導入しているお客様は、データとアプリケーションをクラウドへ移行してモダナイズすることに非常に意欲的であり、大半の企業は上級管理職や役員が主導するクラウドモダナイズेशनイニシアチブに基づいて、この動きを進めています。このような「クラウドファーストの指示」といったトップダウン型のアプローチは、大きな成長と販売機会が見出されたときや、コンプライアンス要件によりそのような行動が要求されるとき、またはその両方の状況が存在するときによく見られます。

半数近く（42%）が、モダナイズしないことで効率が低下すると回答し、また37%がスピードと俊敏性が低下するとしています。また回答者は、オンプレミスのアプリケーションをクラウドにモダナイズしないと、競争力が低下するとしています。データとアプリケーションをモダナイズする動きは、競争力を維持し、拡大するクラウド環境への可視性を提供するという、データリーダーのニーズの高まりへ対応するための業務上の最優先課題であると捉えられています。

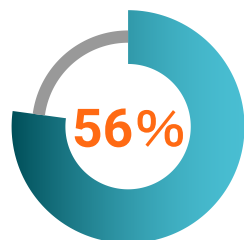
調査で明らかになったこと



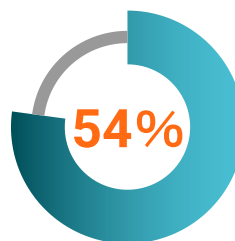
クラウドへのモダナイゼーションを優先するデータリーダーの90%が、効率の改善、拡張性の向上、イノベーションの推進を図っている。



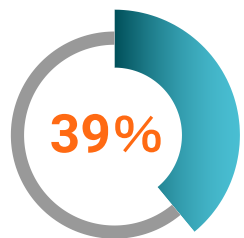
データリーダーの84%が、レガシーのデータインフラストラクチャをクラウドにモダナイズすることがAIのメリットを最大限に引き出すために不可欠だと確信している。



データリーダーの56%が、クラウドモダナイゼーションイニシアチブの主な推進要因は役員、上層部、経営幹部によって主導されていることにあると考えている。



モダナイゼーションの重要な本質を浮き彫りにする形で、データリーダーの54%が、クラウドモダナイゼーションイニシアチブを進める上でAIは不可欠な要素であると認識している。



データリーダーの39%が、モダナイゼーションプロジェクトにおける3大課題として、セキュリティとコンプライアンス、データガバナンス、技術的な複雑さを挙げている（回答は複数選択）。



「当社は、新しい機能やアプリケーションを迅速に実装することで、市場投入までの期間を短縮できるモダナイゼーションのアプローチを導入したいと考えています」

– SaaSアプリケーション開発企業の
エンタープライズアーキテクチャ担当
ディレクター（豪州）

お客様の視点：データとアプリケーションをクラウドにモダナイズすることで、どのようにAIの可能性を最大限に引き出すことができるか

データとアプリケーションをオンプレミスのデータセンターからクラウドに移行させることには、データウェアハウジングアプリケーションの変更が伴う可能性が高くなります。企業がモダナイズされたクラウドアプリケーションへと移行する際、ワークロードの移行に伴って4つの課題が浮かび上がります。

データリーダーは、クラウドへのモダナイゼーションにおける大きな懸念として、セキュリティおよびコンプライアンスリスク、データガバナンス、技術的な複雑さ、データ品質の問題を挙げています。多くのデータリーダーが調査のコメントで、障害回復（DR）の強化、データに対する可視性の向上、データ分類ポリシーの管理、AIツールのより適切な取扱いがモダナイゼーション

レガシーのデータインフラストラクチャをクラウドにモダナイズすることを促す3大要因は何ですか？

効率の改善

32%

拡張性の向上

31%

イノベーションの
推進

27%

ンを追求する重要な理由であると述べています。データ量の飛躍的な増加に対して既存の環境は力不足であり、データの管理と統合に必要なプロセスや手順を効果的に処理することができないと認識しています。

クラウドモダナイゼーションの先送りは選択肢にありません。回答者によると、そういった先送りは、効率の低下、業務のスピードと俊敏性の低下、競争力の低下、イノベーションの減少、サイバーセキュリティ防御における脆弱性の発生につながるといいます。

クラウドでAIを活用することで、データを実践的に活用する人々はさまざまなデータマネジメント機能を最適な方法で利用することが可能になります。

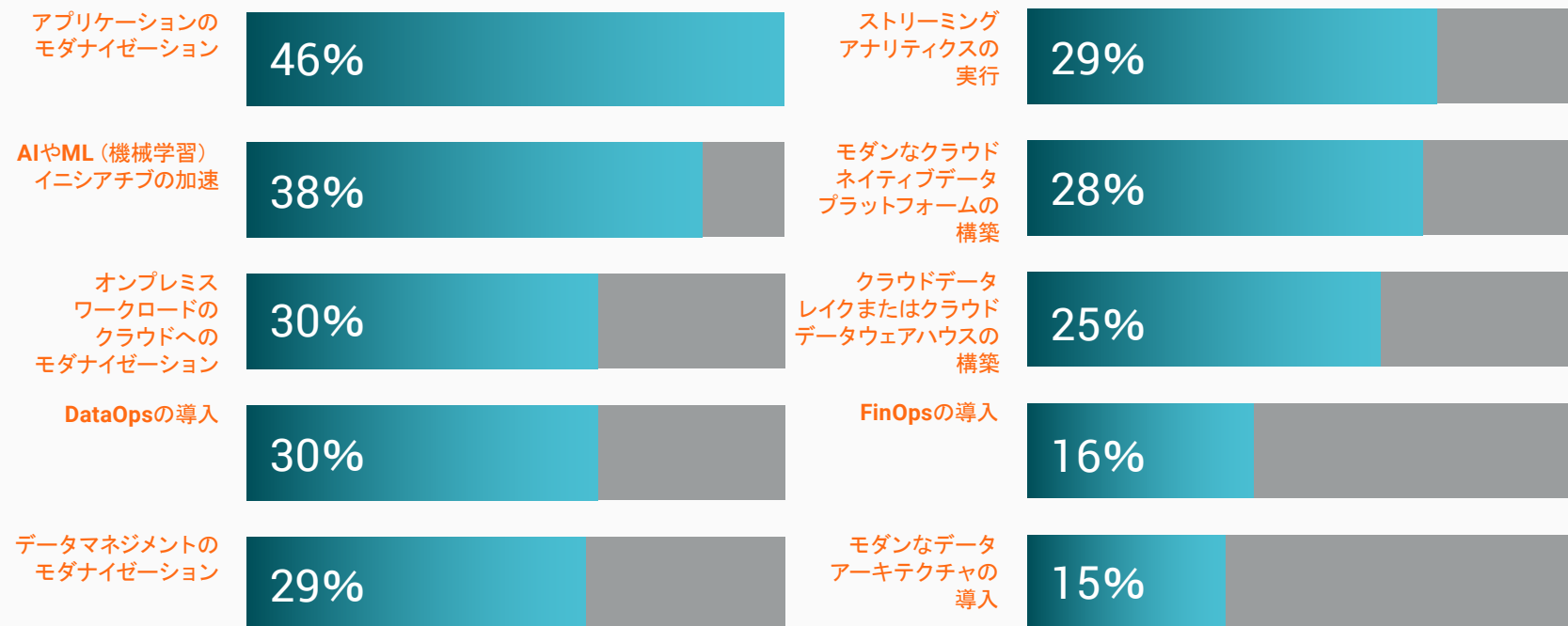
「クラウドモダナイゼーションプロセスを通じて、ITインフラストラクチャの一元化と連結が可能になり、その結果、複雑さが緩和され、管理性が高まることを期待しています」

－ 小売企業のデータベース担当
マネージャー（米国）

今後の展望： データとAIに関する2024年のトレンド

AIの観点から見た場合、2022年は生成AIがラボから外に飛び出した年で、2023年は生成AIが幅広く普及し、2024年は組織がデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するのに伴い、AIの価値を引き出すためにクラウドモダナイゼーションのイニシアチブに投資する年になりつつあります。

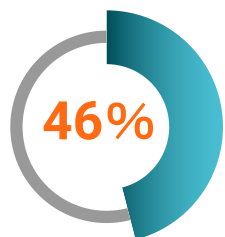
今後1年半について、どのようなクラウドモダナイゼーションのイニシアチブを見込んでいますか？



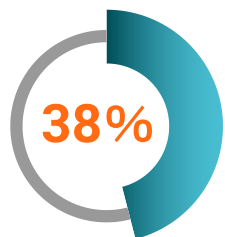
2024年、データリーダーの84%が、アプリケーションに対するインサイトを集めて、その利用方法を根本的に変えるために、AIを導入するとしています。さらに、AIを利用してクラウドベースのアプリケーションとオペレーションのアナリティクスを改善することを計画しています。

2024年に組織を変革してクラウドで成功を収めるために、データリーダーはAIを活用した自動化にフォーカス（23%）するとともに、ベンダーによる囲い込みの回避とリスク緩和のためのマルチクラウドサポートを求めています（18%）。特化型の機能を提供するクラウドプロバイダーを活用し、高いパフォーマンス目標を達成したいと考えています。また、PowerCenterを

スポットライト：2024年のトレンド



PowerCenterユーザーの46%が、アプリケーションのモダナイゼーションに重点を置く予定。



38%が、AIやMLイニシアチブの加速に重点を置く予定。

導入しているお客様は、ワークロードをクラウドに移行することによる拡張性（17%）と柔軟性（15%）の強化も求めています。新しいデータマネジメントの使用事例にスムーズに適応できる柔軟性も引き続き重視しています（13%）。

「新しいクラウドテクノロジーにより、システムのパフォーマンスと使用状況に対するインサイトとアナリティクスの改善がもたらされることを期待しています」

— エネルギー企業のデータおよび
AI担当ディレクター（カナダ）

データリーダーの約30%は、オンプレミスのワークロードをクラウドに移行させることにフォーカスする計画であり、また同数がDataOpsの導入に取り組むとしています。僅差で、回答者の29%が、データ統合、データ品質、マスターデータマネジメント（MDM）、データガバナンスなど、データマネジメントの使用事例の導入を計画しています。また、データリーダーの29%が、ストリーミングデータアナリティクスの実行を次の取り組みに挙げています。2024年にデータリーダーたちがすべきことが山積していることは間違いなく、それらをAI搭載のクラウドモダナイゼーションソリューションによって可能にする必要があります。

クラウドモダナイゼーションがAI時代の次なる段階を促進する理由

テクノロジーリーダーと経営幹部は、組織内におけるAIの導入、運用化、拡張において、クラウドモダナイゼーションが果たす重要な役割をすでに認識しています。

レガシーデータインフラストラクチャのクラウドへのモダナイゼーションを先送りした場合、組織はどのような影響を受けますか？

効率の低下

42%

スピード/
俊敏性の低下

37%

競争力の低下

30%

イノベーションの
欠如

25%

セキュリティの
低下

25%

機能性の悪化

23%

クラウドネイティブ
プラットフォームと
テクノロジーを
導入できない

21%

統合に関する課題

20%

顧客満足度の低下

18%

ユーザー体験の質の
低下

17%

メンテナンスコストの
増加

13%

十分なスキルを
持つ人材の不足

4%

オンプレミスワークロードのクラウドへのモダナイゼーションによってデータがより明確に分類されるようになることで、コンプライアンスとレポーティングが効率化します。データリーダーの76%が、データとアプリケーションをクラウドへモダナイズし、強力なAIのプレゼンスを確立する取り組みは、業務部門リーダーやアナリティクスチーム、あるいは機能横断的なチームからのボトムアップ型のアプローチではなく、役員やIT部門からのクラウドファーストの指示によるものであると回答しています。

「私たちは、電子機器廃棄物の量を減らしたいと考えています」

－医療機関のIT担当マネージャー（豪州）

ある米國小売企業のデータベース担当マネージャーは、クラウドモダナイゼーションプロセスを通じて、自社のITインフラストラクチャの一元化と連

結が可能になり、その結果、複雑さが緩和され、在庫管理が改善されることを期待していると述べています。2024年はこれまでよりもずっと詳細なレベルでAIの可能性を引き出すことができる年になると考えている他の回答者たちも、同様の意見を述べていました。

従来、AIは大規模なシステム向けに使用されており、データベースマネージャーが変更できるものではありませんでした。しかし現在では、アナリティクスの調整やソフトウェア開発ライフサイクルプロセス視覚化ツールの更新、地域間でのデータの複製と配布、日常的な業務のオフロードなど、特定の機能にAIを適応させることが可能となり、ITスタッフはよりミッションクリティカルなオペレーションの問題に集中できるようになりました。

サイバーセキュリティの観点では、障害回復や事業継続の取り組み、脅威分析、リアルタイムの暗号化、脆弱性スキャン、サードパーティリスクの低減といった、クラウドベースのデータを保護するための**重要なセキュリティ制御について、AIはより有用なインサイトを提供します。**



「クラウドモダナイゼーションによって、組織はアプリケーション開発を迅速化し、実装プロセスを自動化することができます」

－ 航空会社のエンタープライズアーキテクチャ担当
ディレクター（米国）

ユーザーの視点： データリーダーの期待と目標

AIを活用したクラウドモダナイゼーションについてさまざまなトレンドを見てきましたが、ここで回答者（本レポートの読者の同僚や同業者）の期待、計画、目標に関する意見をご紹介します。

「モダンなデータアーキテクチャ（データファブリック、データメッシュ、モダンデータスタックなど）、アプリケーションのモダナイゼーションとデータマネジメントのモダナイゼーション（データ統合、データ品質、マスターデータマネジメント、データガバナンス）を導入したいと考えています」

－ エネルギー企業のエグゼクティブバイスプレジデント（米国）

「クラウドモダナイゼーションを通じて、リソースとその使用状況の可視性を高め、管理を改善できるようになることを期待しています」

－ 金融サービス企業のビッグデータ担当ディレクター（ドイツ）

「当社は、クラウドモダナイゼーションによって、人工知能や機械学習、ビッグデータアナリティクスなど、幅広い先進テクノロジーを利用可能になることを期待しています」

－ 保険会社のCIO（フランス）

「リアルタイムのデータ分析と意思決定のための優れたクラウドベースのアナリティクスプラットフォームが必要です」

－ 政府機関のCIO補佐官（日本）

「当社の目標は、新しい機能、サービス、テクノロジーの継続的な改善です」

－ 鉱業企業のCIO（カナダ）

「データの復元を確約する自動バックアップテストの導入に、より優れたオプションを提供してくれるでしょう」

－ 小売企業のデータ担当ディレクター（カナダ）

「迅速なアプリケーション実装（を強化すること）により、クラウドアプリケーション開発を改善したいと考えています」

－ 金融サービス企業のデジタルアナリティクス担当ディレクター（米国）

「クラウドモダナイゼーションにより、変化するビジネスニーズに対応し、リソースを最適化することが可能になるはずです」

－ ホスピタリティ企業のデータマネジメント担当ディレクター（米国）

「より高い回復力と柔軟性を備えた障害回復計画の導入に関連する機能です」

－ エンターテインメント企業のCIO（日本）

ユーザーの視点： データリーダーの期待と目標

「人工知能や機械学習、ビッグデータアナリティクスなど、クラウドが提供する幅広い先進テクノロジーを利用したいです」

－ 航空会社のCIO（フランス）

「私たちは、より良い、改善されたセキュリティ態勢で、より優れたデータ保護対策を提供したいと考えています」

－ エネルギー企業のCTO（フランス）

「より高い回復力と柔軟性を備えた障害回復計画の導入に関連する機能です」

－ エンターテインメント企業のCIO（日本）

「クラウドモダナイゼーションは、パフォーマンス改善のためのトラフィックルーティングとロードバランシングの導入に、より良いオプションを提供してくれるはずです」

－ 金融サービス企業のデータアナリティクスおよびオートメーション担当ディレクター（米国）

「リソースマネジメントを改善するためのクラウドベースのオーケストレーションと自動化ツールです」

－ 金融サービス企業のCIO（フランス）

「当社は変化するビジネスニーズに対応し、リソースプロビジョニングの過不足を回避することを重視しています」

－ 医療機関の臨床分析担当ディレクター（米国）

「クラウド移行によってクラウドベースのサーバーレスコンピューティングを活用することで、当社はインフラストラクチャコストを削減できると考えています」

－ 出版・印刷企業のオペレーションおよびデータアナリティクス担当ディレクター（米国）

まとめ

PowerCenterをご利用のお客様はクラウドモダナイズーションを通じて、AI搭載の自動化ソリューションを導入することによる効率と拡張性の向上、イノベーションと他のモダンなテクノロジーとの統合の促進、コストの管理、データ分析とパフォーマンス向上のためのアナリティクスの強化を実現できます。この調査では、本レポートの対象であるデータリーダーが、クラウドモダナイズーションによって特に優位性を獲得したいと考えている4つの分野を特定しました。

1. クラウドオペレーションの強化

クラウドネイティブなデータアーキテクチャを使用することで、データマネジメント関連の新しい使用事例を迅速に導入し、業務要件の変更に柔軟に対応できます。

2. セキュアなデータ

セキュアで信頼できるクラウドネイティブなデータプラットフォームの確立により、ゼロトラストの原則に基づく統合されたクラウドベースのアプローチで、サイバーセキュリティプロファイルを強化し、リスクを緩和するとともに、コンプライアンスレポートの機能を改善することができます。

3. コストの削減

モダンなクラウドサービスを提供することで、オンプレミスのコンピューティングインフラストラクチャに対するニーズを減らし、その資金を戦略的クラウドパートナーに再割り当てすると同時に、オーバーヘッドコストを削減できます。これにより、従量ベースの価格設定モデルでコストを事業経費予算に移すことで、資本的支出が削減されます。

4. 将来も安心なデータプラットフォームの構築

AI搭載のクラウドモダナイズーションソリューションを導入することで、新しいテクノロジーや機能が利用可能になったときに、それらを取り入れる準備を整えることができます。多くの回答者が言及していたAIによる強化機能には、アナリティクス、SOAR（セキュリティのオーケストレーション、自動化、対応）、データ視覚化、ソフトウェアの開発と実装、データ分類、クラウドネイティブ開発とコンテナ化などが含まれます。

調査方法について

『2024年クラウドモダナイズーションの現状に関するレポート』の調査は、Energize Marketing社により、北米、欧州、アジア太平洋地域でInformatica PowerCenterを使用している企業で働く300人のシニアレベルエグゼクティブ（CDO、CIO、最高アナリティクス責任者、ITおよび情報アーキテクト、データウェアハウスエグゼクティブなど）を対象に、2023年11月に電子メールで案内状を送信し、オンラインアンケートを通じて実施されました。

標本に基づく結果は、標本分散の影響を受けます。分散の大きさは計測可能であり、聴き取り数とその結果表明の割合（質問に対して回答があった割合）の影響を受けます。標本に代表される世界の全対象者に対して聴き取りを行った場合に得られる結果と、北米、欧州、アジア太平洋における結果の誤差が±5.6%の範囲内である可能性は95/100です。

企業情報

インフォマティカ (NYSE:INFA) は、データとAIが持つ変革の力を形にするための支援を通して、企業の最重要資産であるデータとAIに命を吹き込んでいます。データの価値を適切に引き出して信頼できるリソースとして活用することで、組織全体でデータを民主化し、混沌とした環境から明瞭な環境へと変革できます。多くの企業が、Informatica Intelligent Data Management Cloud™ (IDMC) を使用してデータに命を吹き込むことで、壮大なアイデアを促進してプロセスを改善し、コストを削減しています。AIエンジンのCLAIRE®を搭載したIDMCは、タイプ、パターン、複雑さ、ワークロード、場所を問わず、あらゆるデータを1つのプラットフォームで管理できる唯一のクラウドです。

IN19-4680-0923

© Copyright Informatica LLC 2024. Informatica、Informaticaロゴは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。

[informatica.com/jp](https://www.informatica.com/jp)

Where data & AI come to



〒105-6226 東京都港区愛宕2-5-1
愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階
電話：03-6403-7600（代表）
FAX：03-3433-1021

[informatica.com/jp](https://www.informatica.com/jp)
twitter.com/informaticajpn

お問い合わせ